

「宇治キャンパス公開2003」に 附属図書館宇治分館が参加

附属図書館 宇治分館 菅 修 一

10月3日（金）13:00～16:30と4日（土）9:30～16:30の2日間、宇治地区では「宇治キャンパス公開2003」が開催され、多数の市民が来場した。このキャンパス公開で附属図書館宇治分館は昨年に引き続き資料展示を開催した。今年のテーマは、「懐かしい日本の風景」と題して、二部構成で行った。第一部では当館所蔵の和雑誌からグラビア写真の頁を多数展示した。椅子式家具による生活モデルを示した「公務員アパートの住い方」（工芸ニュース第18巻11号（1950））・現在は周囲にたくさんの建物が立つ京都南インターチェンジ付近だが開通当時は閑散としていた様子がわかる「空から見るインターチェンジ：開通した名神高速道路」（月刊建設第7巻8号（1963））・今はもうなくなった阪神パークにいた「レオパンの成長日記」（科学朝日第21巻3号（1961））・琵琶湖大橋の完成までのプロセスを示す「琵琶湖大橋完成」（土木学会誌第49巻12号（1964））・「スタートした京大の大型計算機センター」（科学朝日第29巻3号（1969））等、戦後昭和20年代から昭和40年代半ばまでの日本の風景を並べた。第二部では、関

係者の好意で明治から終戦までの小学校教科書の実物を展示し、挿絵で日本の風景を追っていた。「二匹の蛙の話」（『高等小学読本第三』（明治20））は大阪見物に出かける京都の蛙と京都見物に出かける大阪の蛙が天王山で出会う話である。見学者からは、変体仮名で書かれた文章を読みながら、当時の小学生が随分難解な文章を勉強したことに感心したとの声があった。また、「京都の市街」（『尋常小学地理書巻一』（昭和15））は、東本願寺前を市電が走る様子が描かれていた。

はじめて大学図書館の中に入られた方も多かった。また、お仕事の関係で宇治分館所蔵の和洋の学術雑誌に関心を示される方も多く、学外者の利用についてのご質問もあった。小さなお子さんを連れたおかあさん、高校生、来年から宇治キャンパスで大学院生活をおくる人、たくさんの方に見ていただいた。宇治キャンパスの教職員・院生の方も展示を興味深く見ていただきうれしかった。入場者は2日間で120名（内訳10月3日12名、4日108名）であった。

（すが しゅういち）



資料展示の様子 撮影：今井政敏（宇治地区事務部研究協力課）